

I 2012 年度認証評価 努力課題に対する改善計画（報告）書

該当なし

II 2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2015 年度大学評価結果総評】

デザイン工学研究科の理念・目的は、人文科学・社会科学、自然科学、工学などの知性に基づく合理と、人間の感性に依拠した美との融合を目指す「総合デザイン (Holistic Design)」を学問的に体系化することを目指した研究科である。換言すれば、「地球環境の保全とサステナブル社会の創出、及び新しい文化的価値の創造などを目標とする総合デザインに関する研究とその理念に資する人材の養成」を目指している。

このような総合的なデザイン力を習得した人材の養成という理念は、デザイン工学研究科の独創的な発想と構想のもとに作られたものであり、高く評価でき、自己点検・評価の積み重ねにより、さらなる発展が期待される。

【2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）

高く評価して頂いたので、期待を裏切らないよう、より精進をしたい。

III 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教員像および教員組織の編制方針】（2011 年度自己点検・評価報告書より）

デザイン工学研究科は、建築学専攻、都市環境デザイン工学専攻、システムデザイン専攻の 3 専攻からなる。その基礎となる学部は 2007 年度に開設したデザイン工学部で、同一名称の 3 学科からなる。従って、各専攻の専門分野に配置する専任教員は、すべて学部における同一専門分野の専任教員でもある。

3 専攻に共通する教員像は、総合デザインに関する基礎研究、応用技術開発、実践によるデザイン実務の何れか一つ、または複数にまたがる優れた業績を有し、かつ、教育面においては学生に深い愛情をもってその育成に情熱を傾けることのできる人柄を有する者である。

教員組織としては各専攻・各分野の教育研究に必要かつ十分な人員数を配置すること、基礎研究から応用と実践に至る様々な領域に幅広く対応できるよう、研究者と実務経験者をバランスよく配置することを基本的な編制方針としている。

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

・大学院担当教員採用基準（内規）

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【研究科執行部の構成、研究科内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

・各専攻による教室会議、専攻主任会議、研究科教授会にて、必要な役割分担と責任の所在を定めている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①研究科（専攻）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400 字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。

3 専攻からなるデザイン工学研究科の共通する教員像は、総合デザインに関する基礎研究、応用技術開発、実践によるデザイン実務の何れか一つ、または複数にまたがる優れた業績を有し、かつ、教育面においては学生に深い愛情をもってその育成に情熱を傾けることのできる人柄を有する者である。

教員組織としては各専攻・各分野の教育研究に必要かつ十分な人員数を配置すること、基礎研究から応用と実践に至る様々な領域に幅広く対応できるよう、研究者と実務経験者をバランスよく配置することを基本的な編成方針としている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

2015年度研究指導教員数一覧（専任）

（2015年5月1日現在）

研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数	設置基準上必要教員数	
			研究指導 教員数	うち教授数
建築	13	11	8	3
都市環境	10	8	4	3
システム	10	10	5	3
修士計	33	29	17	9
建築	13	11	4	3
都市環境	10	8	4	3
システム	10	10	4	3
博士計	33	30	12	9
研究科計	66	60	29	18

研究指導教員1人あたりの学生数：修士2.17人、博士0.36人

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】（～200字程度まで）※ない場合は「特になし」と記入。

定年退職に伴う採用人事に際して、年齢構成を配慮して行っている。一時期は60歳代の教員数に偏りが見られたが、2015年度における専任教員の年齢構成は、60歳代15名、50歳代11名、40歳代7名、30歳代2名、20歳代1名となっており、徐々に年齢構成のバランスが改善されている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

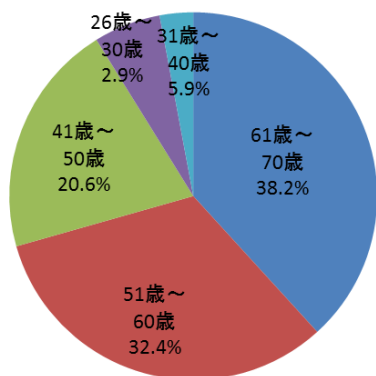
・特になし

専任教員年齢構成一覧

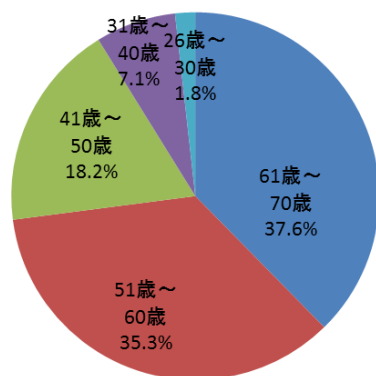
（5月1日現在）

年度\年齢	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳
2015	1人	2人	7人	11人	13人
	1.8%	7.1%	18.2%	35.3%	37.6%

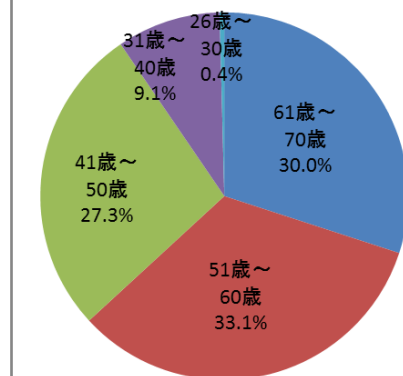
年齢構成比
（2015年度デ工）



年齢構成比
（デ工過去5年平均）



年齢構成比
（2015年度全研究科平均）



1.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。

①大学院担当教員に関する各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※大学院担当教員に関する規程・内規等の名称を簡条書きで記入。

・大学院担当教員採用基準（内規）

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい いいえ

【教員の募集・任免・昇格に関する学部教授会との連携体制】※教員の募集・任免・昇格に関し、学部教授会とどのような連携が行われているか概要を簡条書きで記入。

- ・本研究科は以下に記した大学院担当教員採用基準（内規）第6項～8項に従って、教員の採用人事を行っている。
- ・本研究科教授会は学部教授会とほぼ同じ構成員であるために、情報を共有し、理念を共有することにより円滑な運営が

なされている。		
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。		
・特になし		
1.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。		
①研究科（専攻）内のFD活動は適切に行われていますか。	A	B C
【FD活動を行うための体制】 ※箇条書きで記入。 ・教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会として、学内外で実施される授業改善のシンポジウムや講演会、授業改善アンケートの研修会についての情報を教授会で広報している。 ・全学的に実施されている授業改善アンケートの結果に基づき、個人毎にWeb シラバスに改善策を記載している。 ・建築学専攻は、2013年度に受審したJABEE建築系学士修士課程プログラム認定への取り組みをFD活動の一環として位置付けている。シラバスの確認やアウトカムズの収集、成績評価方法の共有などを通して、定期的な教育内容・方法等の改善が図られている。また、デザイン教育の基軸であるデザインスタジオの合同講習会や、学部・院合同で実施するデザインスタジオ連絡会議は教員相互の教育内容の確認と向上にも寄与している。 ・都市環境デザイン工学専攻は、学部におけるFD活動と連動し、教員各自のFD活動（授業改善のシンポジウムや講演会等への参加）を推奨し、FD活動報告書の提出を義務づけている。また、下記のWG等において教育内容の改善を継続的に進めている。①教育内容改善WGでは、授業・カリキュラムの改善案を検討し、教室会議で提案・実施している。②学習・教育到達目標WGでは、育成しようとする技術者像ならびに卒業時点で技術者としての素養を備えるために、学業課程において到達すべき学習・教育上の目標を定めている。③教育環境WGでは、学習・教育到達目標を達成するための教育環境の質を保持・改善するための方策を検討している。 ・システムデザイン専攻は、専攻教室会議の都度、よりよい教育を実践するための、情報共有、教育手法の相互啓発に一定の時間をさいている。とくに、全教員がプロジェクト科目を分担して担当するための定期的な打ち合わせの際に、当該対象学生群の特徴、望ましいアクティブラーニングについて議論している。 【2015年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※箇条書きで記入。 ・2015年度JABEE受審校研修会（2015年5月9～10日、土木学会講堂、JABEE認定制度の概要と認定基準の解説等・JABEEに係わる動向・旧基準と新基準の解説・日程・審査の手順と方法・受審校報告、2人） ・学部自己点検懇談会（ワークショップ型）（2015年6月4日、市ヶ谷キャンパス九段校舎第1会議室、評価指標を設定し経年データによる自己点検を併用すれば文章執筆による自己点検の負担を軽減することができるか・法令遵守的な指標の他に各学部が必要とする評価指標は何か・試験的に用意したいいくつかの指標の経年データを活用しつつグループワーク形式で検討する、1人）		
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。		
・FD活動報告書		
・WG活動報告書		
②研究活動を活性化するための方策を講じていますか。	A	B C
【研究活動活性化の取り組み】 ※箇条書きで記入。 ・研究活動の活性化を図るために、外国人客員教員の受入れ（2014年度1名、2015年度2名）やサバティカルの奨励など、積極的に学外研究との交流を図り、研究活動の活性化に講じている。海外研修プログラムでは、4大学合同のワークショップなど、教員相互の交流や合同研究も行っている。 ・各教員の研究活動が十分に活性化しているが、その活動を阻害する要因を取り除く必要がある。教員に課せられる事務仕事の簡易化について議論をはじめている。		
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。		
・特になし		

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

デザイン工学研究科の教員に求める能力・資質等は、大学院担当教員採用基準（内規）により明らかにされている。また、組織的な教育を実施するうえでの役割と責任は、各専攻の教室会議、専攻主任会議、研究科教授会により分担されている。

教員組織については、学生に対してしっかり教育を行うことを基本とする、求める教員像を念頭に、研究者とその芸術性で優れた評価を受けている人を含む実務経験者とをバランスよく配置し、各専攻のカリキュラムに相応しい体制が備えられている。大学院での教育経験がない教員に対しては、必要に応じて周囲がサポートする体制となっており、これまで支障は生じていない。

教員年齢構成については、採用人事の際に年齢を考慮することにより年齢バランスの改善が進められている。

教員の募集・採用・昇格については、大学院担当教員採用基準（内規）により、適切に行われている。

FD活動については、学内外のシンポジウムや研修会の情報を教授会で共有するほか、建築学専攻では、JABEE 建築系学士修士課程プログラム認定への取り組みがFD活動に活用されている。また、都市環境デザイン工学専攻では、教員各自のFD活動を奨励するとともに3つのWGを設け教育内容の改善に努めている。システムデザイン専攻では、教室会議の際に情報共有、教育手法の相互啓発等が行われている。以上のことから、FD活動は適切に行われていると評価できる。

研究活動の活性化については、外国人客員教員の受入れやサバティカルの奨励、海外研修による教員の交流など、積極的に様々な取り組みが行われており評価できる。

2 教育課程・教育内容

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教育課程の編成・実施方針】

デザイン工学研究科の目的は、総合デザイン力を身につけた高度な専門職業人や研究者を社会に輩出することにある。これを実現するため、研究科および各専攻は、学生が自ら問題を見出し、自ら解決策を探求し創造していけるよう、以下のような特色を備えた教育課程を編成し、実施する。

修士課程

1. 学部・大学院一貫教育カリキュラム

学部と大学院の教育的一貫性を実現するため、学部生には大学院科目の先取り履修ができるようにするとともに、修士課程の学生が学部の科目を必要に応じて履修できるよう「学部合併科目」群を用意する。また、この一貫性を学生に分かりやすくするため、科目によっては連続番号を付して学部から修士課程に至るまで年次順に配当する。

2. 複数コース制

社会の多様化、異業種間の交流の激しい現代にあつては、専門分野に特化した人材以外に、多様な分野にまたがる幅広い人材が必要とされている。こうした要請に応えるため、異なる科目選択や修業年限の違いによる複数の履修コースを設ける。

3. スタジオにおけるデザイン教育

総合デザイン力を育成するためにスタジオと呼ばれる作品制作の場を設ける。スタジオは多数の教員と学生が共同作業や相互の作品批評を行う場であり、ここで、デザイン教育を強力に推し進める。

4. 実務教育科目と学内外実習科目

実務の基礎として必要な要素技術を系統的に習得できる実務教育科目を用意する。

5. 自主的活動に対する単位認定

個人またはグループがキャンパス内外で企画・デザインを提案した場合、国内外のデザインコンペティションへ参加した場合、また、周辺自治体、商店街、地域住民生活などに関する課題やプロジェクトに取り組んだ場合には、自主的な活動として単位評価する授業科目を用意する。

6. 成績評価の公正化・公開制

実習系科目は一人の教員に指導される場合もあるが、多くは複数教員によって指導されるので、評価の公正が担保される。また、ディプロマ（修士論文、修士設計（設計図書を付帯する修士論文）など）や授業科目の一部はその成果物が外

部講師を含めた公開の場で講評される。

博士後期課程

1. 学位論文作成準備指導

専門分野の現状と問題点を正しく認識し、その解決に客観的な視点から取り組むことができるよう初年度に専門科目として様々な論考・特論を配置する。本科目群はそれぞれ学問的な系統を一にする複数の教員が担当する。

2. コースワークの設定

専門分野に関する広範な知識を有し、高度な専門技術に習熟し、外国語による執筆、発表、討議を行うに十分な能力を開発するためにコースワークを設ける。コースワークは、学年進行に沿って適切に配置された特別研究、研修などのプロジェクト型科目によって構成される。

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。

A B C

(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

2010年度の研究科開設にあたり、教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を設定し、文部科学省に届け出て、認可されている。その要点は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせ、教育効果を高めることを目指している。これらは、カリキュラム・ポリシーとして履修ガイドやホームページ、大学院案内、募集要項に明示し、これに基づいたコースワークとリサーチワークを修了要件及び履修方法とともに明文化しており、その位置づけを広く公開することで明らかにしている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・デザイン工学研究科履修ガイド

③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。

A B C

(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

従来、博士課程ではプロジェクト科目が中心であったが、本研究科では、必ず授業科目を履修しなければならないシステムになっており、研究だけではなく、幅広く先端的な知識を身につけるよう配慮している。特に、システムデザイン専攻では、自らの研究分野のみならず、他の分野の講義も履修しなければ修了できない仕組みとなっている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・デザイン工学研究科履修ガイド

2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

① 専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。

A B C

(～400字程度まで) ※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

修士課程において総合デザイン力を身につけた建築デザイン、都市計画、社会基盤整備、インダストリアルデザイン、システムデザインなどに関する高度な専門職業人、また博士後期課程において修士課程の上により高度な研究能力を有する研究者（専門特化型人材）養成と明示し、高度化に対応した教育を提供している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。

A B C

(～400字程度まで) ※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。

2014年度から全専攻共通科目として「海外研修プログラム」を実施している。従来の南カリフォルニア建築大学との交換プログラムに加えて、2015年度からユタ大学との交換プログラムも開始した。また、チェコ工科大学交換留学生の継続的な受け入れや、外国人客員教授による英語科目の開設などの取り組みを行っている。さらに、毎年、フランス・ベルサイユ大学から交換プログラムとして修士の学生を受け入れ、英語での教育を行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1) および(2) の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

デザイン工学研究科修士課程では、カリキュラムポリシーに基づき、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせたカリキュラムを提供しており、その履修方法および修了要件は明文化され、位置づけも明確となっている。

博士後期課程については時代の要請に対応して、リサーチワークのほか、幅広く先端的な知識が身に付けられるよう、コースワークとしての授業科目の履修が修了要件とされている。さらにシステムデザイン専攻では視野が狭くなることを防ぐため、他分野の講義の履修も修了要件とされている。

グローバル化が進む中で、技術分野において専門を活かして活躍することを望む学部卒の学生を、修士課程では高度な専門職業人、博士後期課程では研究者としてそれぞれ養成することが今日大学院に課せられた使命である。そのためには、高度化に対応した、基礎的な学力を前提に新たな技術・研究動向を取り入れた、教育内容の提供が不可欠であり、それに相応しい内容となっている。

大学院のグローバル化を推進するために、全専攻共通科目として「海外研修プログラム」を実施するほか、交換留学生の受け入れ、英語科目の開設等、積極的に様々な取り組みが行われており、高く評価できる。

3 教育方法

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
----------------------	---

【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。

・履修指導にあたっては、修士課程、博士後期課程とも、4月のガイダンス時に、履修ガイドを使用して、専攻主任が説明を行っている。また、2013年度から導入されたチューター制度を利用し、希望する学生に履修アドバイスをを行っている。建築学専攻における、国際的な建築教育(5年間の建築教育)を満たすことを保証する JABEE 建築系学士修士課程プログラムの認定対象者(スタジオ系志望者および JABEE プログラム履修志望者) 全員に対しては、複数教員による個人面談を実施し、研究テーマや履修計画に関する指導を行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②研究科(専攻)として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
---	---

【研究指導計画の明示方法】 ※箇条書きで記入(ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す(学位取得までのロードマップの明示等))。

・学位論文審査基準や作成基準、申請手続きなどは履修ガイドに記載し、学生に毎年配布している。加えて、各専攻で、ガイダンス等において論文審査のスケジュールを記したものを配布もしくは掲示して学生に周知している。

<建築学専攻>

学位審査スケジュールは4月のガイダンス時に説明のうえ、作成要領と共に掲示を行なっている。2015年度より、学生がいつでも入手できるように、配布書類をサーバーに保管し、開示している。

<都市環境デザイン工学専攻>

学位審査スケジュール及び紀要、修士論文の作成要領を含めた「修士論文審査について」という書類を学生に配布している。

<システムデザイン専攻>

大学院の専攻ガイダンスにおいて、学位審査スケジュールを大学院生全員に周知し、各人に紙媒体で配布するとともに、専攻の掲示板にも掲示している。

【根拠資料】※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。

- ・履修ガイド

③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。

はい いいえ

(～400 字程度まで) ※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。

研究計画の立案や学位論文の作成にあたり、本研究科の修士課程および博士後期課程の学生は、履修から進級および修了に至るコースワークにおいて、主査（主指導教員）と 1 人以上の副査（副指導教員）の下で指導を受けることが履修ガイドに示されており、さらにシラバスに基づいたプロセスにしたがって適切に指導が行われている。各専攻の状況は下記の通りである。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・履修ガイド
- ・シラバス

3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。

①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

【検証体制および方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。

- ・2014 年度から、Web シラバスの内容を、大学システムの書式に従い、記載内容を学部と同レベルに設定して作成している。
- ・建築学専攻では 2013 年度の JABEE 建築系学士修士プログラムの受審準備を契機に、毎年 JABEE 運営委員会と教室会議が共同でシラバス作成案内の告知を行ったうえで、シラバスが適切に作成されているか内容の確認を行っている。
- ・都市環境デザイン工学専攻およびシステムデザイン専攻では、専攻主任が内容を確認し問題がある場合は教室会議で議論している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

【検証体制および方法】※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。

- ・授業がシラバス通りに展開されているかについては、授業改善アンケートを通して検証を行っており、専攻主任会議で分析した上で、教授会にて報告している。
- ・建築学専攻は、サーバーに授業記録を保存し、シラバスとの整合性を教室会議および JABEE 審査において検証している。

【根拠資料】「特になし」

特になし

3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。

A B C

【確認体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・Web シラバスに、成績評価の方法と基準を明示し、公平性を確保している。事務に評価に対する問い合わせがあった場合は、事務から担当教員に対応依頼の連絡があり、対応結果を報告することになっている。授業外学習の確認方法は、教員により様々である。多くは、課題作品、課題レポート、演習問題、輪講の担当割り当てなどにより授業外学習の実態はかなり正確に把握され、その評価は単位認定に反映されている。
- ・建築学専攻は、すべての科目において成績評価のための資料を記録し蓄積している。成績評価と単位認定の適切性は JABEE 認定における重要な審査項目となっている。
- ・留学では、本研究科と留学先のシラバスを比較し、専攻主任が単位互換表の試案を作成し、専攻会議で検証の上、承認事項として取り扱われている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。

①教育成果の検証を研究科（専攻）ごとに定期的に行っていますか。

A B C

【検証体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・教育成果の検証は、研究科全体における横断型組織は作っていないが、各専攻にて常時適切に行われている。

- ・建築学専攻では、デザイン教育の基軸となるデザインスタジオにおいて、年度末に学部と合同でデザインスタジオ連絡会議を実施し、スタジオ担当の専任・兼任教員が一堂に会して教育成果の検証と改善に対する意見交換を行っている。また、修士論文および修士設計については全教員による審査会を実施している。なお、修士設計については、大江宏賞講評審査会（優秀修士設計選考会）を開催し、外部審査心を招き、教育成果の検証を行っている。
- ・都市環境デザイン工学専攻では、修士論文について全専任教員による審査会を実施している。学部と合同で行っている講師懇談会（年1回開催）および拡大教室会議（年1回開催）では、専任・兼任教員による教育成果の検証と改善に関する意見交換を行っている。
- ・システムデザイン専攻では、修士論文について全専任教員による審査会を実施している。学部と合同で行っている講師懇談会（年1回開催）では専任・兼任教員による教育成果の検証と改善に関する意見交換を行っている。また、毎回の教室会議では随時、教育成果の検証と改善に関する意見交換を行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。

A B C

【利用方法】 ※箇条書きで記入。

- ・授業改善アンケート結果は、専攻主任会議で分析の上、教授会にて閲覧・報告されている。各科目のアンケート結果に関しては個人に戻されるのが原則であり、各教員は、Web シラバスに前年度のアンケート結果に対する改善策を記入することが義務化されている。この欄を学生への情報公開の場として活用している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※（1）～（2）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

デザイン工学研究科の履修指導は、4月のガイダンスのほか、チューター制度を活用した履修アドバイス、JABEE 建築系学士修士課程プログラム対象者への個人面談など、それぞれのケースに応じ適切に行われている。

研究指導計画は履修ガイドに記載されているが、各専攻においても書面で配布されており、研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導が適切に行われていると評価できる。

シラバスについては、専攻ごとに JABEE 運営委員会や教室会議等で、組織的な検証が行われている。授業がシラバスに沿って行われているかについては、授業改善アンケートによる検証のほか、建築学専攻では授業記録とシラバスの整合性が検証されている。

成績評価と単位認定の適切性については、Web シラバスに成績評価の方法と基準を明示することで、公平性が確保されている。なお、成績評価についての問い合わせがあった場合の対応方法・体制も適切に整備されている。

教育成果の検証については、各専攻において行われる、専任教員全員が参加する、修士論文や成果物の審査会等を通じて適切に行われており、さらに兼任講師が参加する懇談会の開催なども効果的である。

学生による授業改善アンケートの結果については、専攻主任会議で分析を行ったうえで、教授会で閲覧・報告されるほか、各教員に対し Web シラバスへのアンケート結果に対する改善策の記入が義務付けられており、組織的に利用されている。

4 成果

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学位授与方針】

デザイン工学研究科では、次の7項目にわたる素養や能力の獲得を学位授与の方針として掲げる。

1. デザイン目標の発見とそのコンセプトを設定する能力 ー企画・立案能力
2. 高い個別専門技術を組み合わせデザインする能力 ーデザイン能力
3. 問題を幅広い観点から捉え、解を自主的・継続的に見いだす能力 ー問題解決能力
4. デザインの社会的責任を理解し、不測の事態にも誠実に対処する姿勢 ー職業的倫理
5. 人類の遺産である歴史と文化を理解する素養 ー歴史と文化への理解
6. 地球環境の視点から、持続可能な社会づくりに貢献できる資質 ー地球環境への理解
7. 研究・企画内容を論理的に記述し口頭で発表し討議する能力 ー表現・伝達能力

以上の素養と能力を達成し総合デザイン力を身に付けたデザイン工学研究科の学生は、貴重な社会的人材として修了後多様化・複雑化した新しい時代における国際社会の困難な要請にも十分に対応していけるものとする。

<修士課程>

修士課程において所定の単位とコースワークを履修し、かつ必要な研究指導を受けた上、論文の審査並びに最終試験に合格した者に修士（工学）の学位を授与する。

これにより、修士課程では総合デザイン力を身につけた高度な専門職業人として相応しい学識と人格が涵養されたことを証する。

<博士後期課程>

博士後期課程において所定の講義科目とプロジェクト科目を履修し、かつ必要な研究指導を受けた上、論文の審査並びに最終試験に合格した者に博士（工学）の学位を授与する。

これにより、博士後期課程ではより高度な総合デザイン力に基づく企画開発能力を有する教育者、研究者、指導者（専門特化型人材）として相応しい学識と人格が涵養されたことを証する。

4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

①学生の学習成果を測定していますか。

A B C

(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。

- ・研究科全体としては GPA を用いて測定している。例えば、成績優秀者の表彰や就職の学校推薦選考なども、GPA を基準としている。各専攻の評価基準が異なるために専攻間の単純比較ができないこともあり、年度による推移も含めて専攻主任会議において慎重に分析を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

4.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。

①学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。

はい いいえ

【学位論文審査基準の明示方法】※箇条書きで記入。

- ・学位論文審査基準は、履修ガイドに公開されており、4月のガイダンス時に専攻主任からも説明を行っている。学位審査にあたっては、指導教員のみでの評価に偏らないよう、副査の意見も取り入れ、さらに全教員による審査会を開催して評価を行っている。

【根拠資料】※学位論文審査基準にあたる文書の名称および冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。

- ・履修ガイド

②学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。

- ・学位論文審査基準に従い、各専攻の全教員によって厳密におこなっている。また、その結果を専攻主任会議で確認し、他専攻の状況を相互に把握すると共に、問題点をクリアにしている。
- ・最終的に、全専攻主任の合意のもと、研究科長が承認し、教授会で報告される。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

③学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。

A B C

(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

学位の水準を保つために、全教員による審査会の実施に加えて、積極的な各学協会への発表や、教授会における学生の受賞報告などにより、本研究科の水準の測定も行っている。

④学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	はい いいえ
【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※箇条書きで記入。 ・各専攻に就職担当教員がおり、それらの教員が中心となって、専攻の他の教員やキャリアセンターと協力し、大学院生の就職状況、進学状況を把握している。都市専攻・システムデザイン専攻では研究室所属の学生の就職状況、進学状況をメールで収集しデータとして取りまとめている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・進路調査の依頼メール（都市環境デザイン工学専攻）	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※（1）および（2）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

<p>デザイン工学研究科の学習成果の測定は、GPA により行われている。専攻間の評価基準の違いが考慮され、経年比較なども含めて分析が行われている。</p> <p>学位論文審査基準は、履修ガイドに示されるとともにガイダンスでも周知されており適切である。また、学位論文審査結果については、全専攻主任の合意のもと、研究科長が承認し、教授会に報告されており、学位授与状況が適切に把握されている。なお、学位の水準を保つため、全教員による審査会だけでなく、各学会・協会での発表等の実績により研究科の水準の測定に努めていることは評価できる。</p> <p>院生の就職・進学状況については、各専攻の就職担当教員を中心に把握している。</p>
--

5 学生の受け入れ

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

<p>【学生の受け入れ方針】</p> <p>デザイン工学研究科は、デザイン工学に関わる専門職業人と高度な研究能力を有する研究者の養成を目指している。これを達成するためには、入学者が学部段階で獲得しておくべき基礎的な学力が問われる。一方、建設や製造に関わる現場環境並びに業態が多様化し、国際化している現代にあつては、専門分野に特化した人材以外に、多様な教育履歴を有する幅広い人材が必要とされている。また、急速に進む技術革新に適応するためには社会人に対するリカレント教育も必要である。こうした要請に応えるため、入学制度も多様化せざるを得ない。創造性を高め、相互に切磋琢磨する教育環境としては、多様な学生が一堂に会していることも重要である。以上の観点から次に挙げる 7 種の入学制度を設ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般入学制度・学内推薦入学制度 2. 一般推薦入学制度 3. 社会人特別入学制度 4. 建築学専攻 修士課程 選抜 1 年コース制度 5. 建築学専攻・都市環境デザイン工学専攻 修士課程 キャリア 3 年コース制度 6. システムデザイン専攻 自己推薦入学制度 7. 外国人学生特別入学制度

5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。	はい いいえ
(～200 字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。 従来の学内推薦制度に加え、特に優秀な学生（上位 1/4）に対する優遇推薦制度など、新しい入試対策を実施し、定員	

の充足に努めている。また、適切な人数となるよう進路指導を行うとともに、入試において適格に合否判定を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

定員充足率（2011～2015年度）

（各年度5月1日現在）

【修士】

種別\年度	2011	2012	2013	2014	2015	5年平均
入学定員	110名	110名	110名	110名	110名	—
入学者数	133名	77名	105名	87名	81名	—
入学定員充足率	0.83	0.70	0.95	0.79	0.74	0.80
収容定員	223名	223名	223名	223名	223名	—
在籍学生数	269名	231名	197名	197名	179名	—
収容定員充足率	1.21	1.04	0.88	0.88	0.80	0.96

【博士】

種別\年度	2011	2012	2013	2014	2015	5年平均
入学定員	7名	7名	7名	7名	7名	—
入学者数	2名	8名	6名	4名	6名	—
入学定員充足率	0.29	1.14	0.86	0.57	0.86	0.74
収容定員	14名	21名	21名	21名	21名	—
在籍学生数	7名	14名	19名	21名	24名	—
収容定員充足率	0.50	0.67	0.90	1.00	1.14	0.84

5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。

A B C

【検証体制および検証方法】※箇条書きで記入。

・入学試験は厳密に実施され、適切に選抜している。各専攻の試験結果を基に専攻主任会議で合否判定をおこない、教授会で承認されている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・2017年度入試より英語の外部試験を導入し、受験資格に必要な点数を公表している。	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

デザイン工学研究科では新しい入試対策を実施して定員の充足に努めており、適切な対応がなされている。

入学試験は厳格に実施されている。学生募集、および入学者選抜の結果については、専攻主任会議での合否判定を経て、教授会で承認がなされており、適切である。

6 学生支援

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。	
①研究科（専攻）として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。	A B C
<p>(～400 字程度まで) ※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。 チューター制度を活用して留学生の履修計画のサポートを行っている。 同一研究室内で、学生による留学生のピアサポートを積極的に奨励している。これは日本人学生の異文化理解にも有効である。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

デザイン工学研究科では外国人留学生に対し、チューター制度の活動や研究室でのピアサポートなどの適切な修学支援が行われている。

7 内部質保証

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。	
①質保証委員会は適切に活動していますか。	はい いいえ
<p>【2015 年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研究科では、内部質保証のために、執行側の自己点検と、監査側の評価・改善に分けて考えている。執行側については、専攻主任会議がその任を担当しており、様々な承認事項は教授会で決定している。一方、監査側としては、これまでに検討してきたことを踏まえて 2012 年度に質保証委員会規程を整備し、委員会を設置した。 ・執行側の専攻主任会議は、毎月 1 回程度開催して、適切に行われている。監査側の質保証委員会は年 4 回開催している。 ・専攻主任会議は、各専攻の主任で構成されているため、常に専攻にフィードバックされており、承認事項も教授会で行っているため、全員参加の執行体制となっている。一方、質保証委員会は、学部執行部 3 名と、各専攻から選出された委員 3 名および専攻主任 3 名の計 9 名で構成され、年 4 回のペースで開催される。 	
開催日	議題
2015. 5. 1	1. スケジュールの確認 2. 努力課題に対する改善計画 3. 2015 年度現状分析シートについて 4. 2015 年度中期・年度目標 5. デザイン工学研究科質保証委員会規約 6. 委員長・副委員長の選出 7. その他
2015. 9. 23	1. 前回議事録 2. 2015 年度大学評価（デザイン工学研究科）について 3. 2015 年度自己点検・評価活動（教学部門）の総評について

2015. 12. 4	<p>4. 次回質保証委員会での検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科・専攻の理念・目的、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針のチェック 研究科および専攻より特徴を説明（資料作成） ・アドミッション・ポリシーの見直し・検討ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと一体的／整合的なアドミッション・ポリシーの策定 <p>5. その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事録 2. 研究科・専攻の理念・目的、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針のチェック 3. アドミッション・ポリシーの見直し・検討 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと一体的／整合的なアドミッション・ポリシーの策定 4. その他
2015. 2. 9	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回議事録の確認 2. 年度目標の進捗状況 3. その他

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

デザイン工学研究科では専攻主任会議が執行側として自己点検を、質保証委員会が監査側として評価を担い、定期的な活動が適切に行われている。

【大学評価総評】

デザイン工学研究科における 2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応については、高い評価を裏切らないように精進するとの決意表明がなされているが、高評価に満足して守りに入ることがないよう、新たな取り組みに期待したい。

全体としては、「企画・立案能力」、「デザイン能力」、「問題解決能力」、「職業的倫理」、「歴史と文化への理解」、「地球環境への理解」、「表現・伝達能力」を獲得させるため、さまざまな工夫を取り入れた取り組みがなされており、成果もあげている。大学院教育のグローバル化に向けた取り組みも新たに始まったものがあり、持続的な活動が行われていることがうかがえる。今後、学生の気質や社会的な要請の変化にも柔軟に対応できるよう成果のより定量的な自己点検・評価が期待される。